



伊熊健一郎 医師

(いくまけんいちろう)



伊熊健一郎医師は、1980年代初め、当時、特に生殖医療においては最先端の治療を行っていたオーストラリアにて1981年から1年間留学をした。

その間に、臨床面では腹腔鏡と体外受精の技術などを学び、1983年より兵庫医科大学において体外受精のプロジェクトを立ち上げた。

当時の体外受精では、卵子の採取方法は腹腔鏡によるものであり、経腔的採取法が確立した後は、腹腔鏡はお蔵入りとなった。それが、外科の領域で腹腔鏡下胆嚢摘出術が登場した1990年前後に、腹腔鏡が再度登場。以前より進化した装置や器具や鉗子類が開発され、1991年より宝塚市立病院で腹腔鏡下手術を開始。婦人科内視鏡治療の先導者としての大きな役割を果たす。

伊熊医師が考案した卵巣嚢腫に対する体外法(伊熊法)は、国内はじめ世界的にも確立した方法として知られる。他にも多くの術式の開発や手術器具の開発にも関わってきた。

医師プロフィール

- 1949年 兵庫県篠山市生まれ
- 1969年 徳島大学医学部医学科入学
- 1975年 徳島大学医学部(医学課)卒業
- 1975年 兵庫医科大学産科婦人科学教室入局 磯島晋三教授の下、不妊症(抗精子抗体)と免疫学について研究開始
- 1977年 兵庫医科大学産科婦人科学教室 助手
- 1977年 (8月～11月)伊丹市立病院 産婦人科医員
- 1977年 兵庫医科大学産科婦人科学教室 助手
- 1981年 豪州に留学 AdelaideにあるFlinders Universityで免疫学の研究とFlinders Medical Centerにて腹腔鏡と体外受精を学ぶ
- 1982年 兵庫医科大学産科婦人科学で腹腔鏡チームと体外受精チームの立ち上げ
- 1984年 兵庫医科大学産科婦人科学教室講師
- 1984年 宝塚市立病院 産婦人科の初代責任者として就任
- 1985年 医学博士学位受領 (子宮頸管内精子通過性に及ぼす抗精子抗体の影響に関する研究)
- 1990年 宝塚市立病院で腹腔鏡下手術を開始
- 1992年 宝塚市立病院 産婦人科部長
- 2000年 宝塚市立病院 診療部長 兼 産婦人科部長
- 2005年 宝塚市立病院 診療部長
- 2006年3月 宝塚市立病院 退職
- 2006年4月 健保連大阪中央病院 医務局長 婦人科部長
- 2008年4月 健保連大阪中央病院 副院長兼婦人科部長
- 2008年7月 健保連大阪中央病院 副院長
- 2012年4月 医療法人篤静会 谷川記念病院 副院長
- 淀川キリスト教病院 産婦人科内視鏡手術 特別顧問

【大学の講師】

- 昭和59年04月～平成14年03月:兵庫医科大学非常勤講師
- 平成15年04月～平成18年03月:兵庫医科大学臨床実習教授
- 平成05年04月～平成16年03月:滋賀医科大学非常勤講師
- 平成17年04月～現在:滋賀医科大学非常勤講師
- 平成16年04月～平成19年03月:大阪市立大学医学部非常勤講師
- 平成19年04月～平成21年03月:大阪市立大学客員准教授
- 平成21年04月～平成22年03月:大阪市立大学客員教授
- 平成22年04月～大阪市立大学客員准教授
- 平成22年08月～聖マリアンナ医科大学客員教授